

○議長（石橋英和君） 順番10、21番 岡君。

〔21番（岡 弘悟君）登壇〕

○21番（岡 弘悟君）おはようございます。今回の一般質問は、大きい項目が三つです。小項目はちょっと省いています。できたら、大きく話を聞いていきたいなと思いましたが、大題の中でまた細かく一問一答ずつ聞いていかしてもらいます。

それでは、1番の新371号バイパスによる商業圏の変化について。

和歌山県側において、新371号バイパスが開通して数カ月がたち、車の流れも新371号バイパスに変わり始めました。利便性の向上、渋滞緩和、物流の発展等、本市にとっても重要な道路であります。

しかし、その利便性ゆえに気になる点があります。それは、紀見トンネルを抜け、橋本方面に向かい、慶賀野橋を過ぎますと、慶賀野橋というのは皆さんご存じやと思いますけれども、今、マクドナルドがある、その前の橋です。新たに商業を行えるスペースがありません。橋本インターまでのほとんどが、切り取った山で側壁となっているものおります。

さらには、観光客においても、新371号バイパスを通行することで、そのまま京奈和自動車道に乗ることができるため、ナビゲーションシステムが更新され、このルートナビを始めると、本市は素通りの状態になってしまいます。

高野山のお膝元で昔から栄えた本市ですが、一番の利点を失うことになっていきます。利便性で本市の観光、商業が衰退するのではなく、利便性のよさを味方につける新たな取り組み、そして新たな商業スペースを、新371号バイパ

ス法面につくり出せないのかお尋ねいたします。

2番目です。第二次こども園計画の進捗とビジョンについてです。

第一次こども園計画が打ち出され7年が過ぎようとしています。もう7年以上たっているんですかね。僕が議員になってすぐに打ち出された計画やと思いますんで、7年以上がたっていると思うんですけども、当初は5カ年計画で打ち出された計画ではありますが、地域のニーズに応えるためには、遅れもいたし方ないと感じております。

しかし、この7年の間に、二次計画区域である北部での現状は大きく変化いたしました。その変化を行政はどのように捉え、二次計画を進めていくのか。そのビジョンと二次計画の進捗についてお聞きしたいと思います。

三つ目です。態度教育の今後と必要性について。

以前にも質問いたしました、新たな教育長が就任されましたので、再度質問いたします。

態度教育とは、言葉で受け取るイメージとは違い、あいさつなどの日常当たり前に行う行為を、改めて見直すことを目的としています。さまざまなデータの中で注目されているのは、態度教育を導入しているところでは、基本的に学力水準が高いということでありませ

前教育長は、態度教育の導入、そして本市全体での実行に努力していただきましたが、引き続き態度教育を積極的に行っていただけるのでしょうか。

さらには、もう一歩進んだ態度教育に取り

組んでいただけるのでしょうか。本市独自の態度教育を構築していけば、各学校との差異などは少なくなり、バランスのとれた態度教育を行うことができると思うのですが、いかがでしょうか。

以上三点です。よろしく申し上げます。

○議長（石橋英和君）21番 岡君の質問項目1、国道371号橋本バイパス開通による商業圏の変化に関する質問に対する答弁を求めます。経済部長。

〔経済部長（笠原英治君）登壇〕

○経済部長（笠原英治君）おはようございます。新371号バイパスによる商業圏の変化についてお答えします。

国道371号橋本バイパスの開通により、通勤時間帯等の渋滞が緩和されたことや、橋本北部と南部の距離感が縮まることで、地域間の関係が一層深まるなど多くの利点が期待されます。

しかし、その一方で慶賀野橋から京奈和自動車道橋本インターまでの国道371号の利用者が減少し、沿線のコンビニエンスストアや飲食店などの商業施設からは、土日・祝日の利用客が以前より減少し、経営に影響しているという声を聞いています。

大阪方面からの観光客等が、新バイパス経由で直接橋本インターチェンジへ向かい、京奈和自動車道に流れていることなどが原因の一つと考えられます。

自家用車のカーナビゲーションシステムが更新されると、一層その状況が顕著に現れると思われれます。

これらの対策として、新たな商業スペースを国道371号橋本バイパスの法面につくり出すことができないかとおたただしですが、議員ご指摘のとおり、新バイパス沿いの土地の形状を考えると、大きな土地造成工事が必要となり、行政主体では非常に取り組みにくい

ものと考えられます。

現在、本市では平成27年の春に紀の川河南地域でオープンするくにぎふれあいの里に大きくかかわっています。周辺の隠れ谷池でのヘラブナ釣りや、国城山ハイキング等、従来の資源と複合的に誘客できる方法を研究しています。

また、新しい観光資源を創出するために、市内外の学生や市民の方々のアイデアを募りたいと考えています。

議員ご指摘のとおり、橋本市が単なる通過点とならないように、新たな観光資源発掘と資源の見直しなど、橋本市を着地型観光拠点として整備し、情報発信に努めてまいります。

○議長（石橋英和君）21番 岡君、再質問ありますか。

21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

ちょっと自分も反省の意味を込めて、法面に関してはちょっと質問させていただきました。自分も議員になる前からの計画で、父も議員をやらしていただいていたんで、その話はちょっと小耳に挟んだというか、自分の記憶の中ではほとんど残ってなかったんですけど、今考えれば、そういえば父親も新371号バイパスは山も切り取ってつくるので、横に商業スペース等ができる、まあいけば更地がないと。唯一できるのは、今杉村公園の駐車場として計画しているところには、どうにか土を入れれば更地になるという話は、もうはるか前に聞いたことがあったんです。

でも、それを自分自身が忘れていて、自分も新371号バイパスの早期実現ということのところばかりに頭があってしまって、県主体の工事なので、市がどうこうというのは言えないんですけども、県に要望していくっていうのを、実際できてなかった自分の反省と戒めも込めて質問させていただいたんですけど、

実際自分も今さら言っても、それは無理やなていうのは実際わかっているんです。

そこで、ここの中でも書かしてもらったんですけども、一番これから大事なものは、じゃ観光客が大阪方面からナビゲーションシステムでこちらに来られるようになって、どうやったらワンストップしていただけるかっていう方法を考えていかなければいけない。

先ほど答弁でもいただきましたけども、沿線のコンビニエンスストアなどは実際今被害というか、被害って言うたらおかしいですね。議長、これ、訂正いたします。お客さんが減っていると。その中で、今後一番、もう一つ、もう一段階なってきたら、今まだナビゲーションシステムで更新されてないんで、新371号を通る車はまだ市脇のほうにおりて来られる車も多いんです。実際、土日、あそこ渋滞しますよね、まだ。夕方はまだましですけど、朝はもう上まで渋滞しています。これ、恐らくナビゲーションシステムを更新されたら、渋滞しないですよ。つまり、橋本市には誰もワンストップしないっていう状態がほぼ二、三年の間に考えられます。

ていうことは、橋本市に何か目的を持ってワンストップしていただく方法を考えないと、基本的には橋本市の観光は成り立たなくなります。

今までは、通った道すがら寄れるところはあるんですけども、その道すがら寄るのではなくて、橋本市に寄って帰ろうという何かが必要なければ、橋本市には寄って帰らないでしょうね。これ、自分自身もそう、いろんな地域もこれで地域自体の観光が成り立たなくなっているという現状があるんですけども、その現状を踏まえた上でも、橋本市が、ナビゲーションシステムが改良されたら、自分自身ももし観光客だと仮定したら、恐らく寄らないですよ。

そして、今お話がありましたけど、ちょっと聞きたいんですけど、くにぎふれあいの里もこれからやられるし、その地域にとってはいいと思うんですけど、対象としているお客さんの方向性というのが、大阪からのお客さんをメインに考えてはるのかな。僕、大阪からのお客さんの話を今しているんですけども、大阪からのお客さんが、隠れ谷の話も出ていましたけども、果たしてそれを目的に来られますかね。僕、今の答弁を聞いていたら、それを複合してっていうお話をされているんですけども、僕はもっと橋本の市街地の中でどうにかしていかなければ、大阪のお客さんはワンストップしないんじゃないかなっていう考えを持っているんですけども、その辺の考えはいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）ただ今議員からご指摘ありました。本市はこれから先、通過型のまちになっていくのではないかと懸念があるという内容やったと思うんですが、橋本市がめざしとるのは着地型観光拠点でありまして、橋本市にある至るところの観光資源を点と点で結んで線にして、さらに面にしていく。これは、橋本市内だけではなく、周辺の広域圏ともかかわってまいりたいと考えております。

その中で、一つの観光資源として、今年度くにぎふれあいの里が完成していくわけなんですけど、これとあわせて広域農道も完成して、九度山町のアカデ橋のところまで開通する予定であります。そうなってくると、メインはかつらぎ町のほうからの高野山アクセスということになるかもしれませんが、この広域農道っていうのは、せんだって名前も募集しまして、県が募集したんですが、フルーツラインという道路名称に決定しております。

もちろんこの道路沿いには果樹園がたくさ

ん広がって、一番高いところから見ると、本当に柿畑、ミカン畑が広がって、さらに紀の川の、またこうして下流へ流れていく様子といった本当に絶景が見ることができます。そのまさに拠点に、このくにぎふれあいの里ができていくわけなんですけど、そういったところに市外の方、県外の方に来ていただいて、そこからその情報をSNSとかで発信していただいて、さらに集客を図っていけるような状況づくりができればなと思っております。

最近、サイクリングの人も多くって、あのぐらいの傾斜であれば、どんどんロードバイクで登って行って、そういった方がこのくにぎふれあいの里で休憩して、だいたいあの自転車っていうのはスタンドがないんですけど、サイクルスタンドも設置していきたいと考えています。そういう意味で、県外に向けても情報発信していきたいと考えております。

○議長（石橋英和君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）僕、くにぎふれあいの里とか、今やられていることを何も否定しているわけではないんです。それはもう全然違うんですわ。

言いたいのは、先ほども言いましたけども、お話を聞きましたけど、着地型観光ですよ。着地型観光というのは、観光客の受け入れ先が地元ならではのプログラムを企画し、参加者が現地集合現地解散する新しい観光の形態っていうことですよ。

まあいえば、見たいものがあって、来ていただいて、現地で見えていただいて、勝手に帰っていただくっていう個人旅行ですわね、簡単にいえばね。僕はそう捉えておるんですけども。今までは発着型って行って、観光バスに乗ってこられるお客さんがおって、帰りも送っていただけるけども、これはいろいろ調べたんですけども、結構イメージしやすいっていか、発信しやすいんですよ。地元と

したら、自分らで企画して、それを発信してっていう、まあいえば旅行会社がやるんじゃないかって、自分らでアピールできるという点で、非常に地元に関しては観光にとってはいい手段やっていうことで、2013年度のやつで、僕ちょっとホームページを見たんです。ちょっと古いんですけど、最終の更新日が2013年4月1日やったんで、ちょっと前のデータになるんですけども、ただ、ここで気になるのは、何を中心に、じゃ線と点で結ぶんやっていう話が気になるんですよ。何を中心にしていくなやって。

つまり、結んでいく中に、くにぎふれあいの里があったり、隠れ谷池があったり、まあいうたら一つの中心の大きな観光目的の中心の中で、それを枝の中の一つの場所として考えていくのであれば、僕はすごくいいソフトやと思うんです、橋本市内においても。

ただ、本当に大きな意味での目的を持って橋本市に来るっていう一番の目的が、そこでは少し希薄に感じられるんです。特に、僕が一番問題視しているのは、農道ができたり、国道24号、京奈和自動車道、奈良、和歌山からのお客さんというアクセスにおいては非常に便利やけども、僕が一番危惧しているのは、国道371号に乗ってしまうと、橋本のあのインターの前でもう高速に乗れちゃうんですよ。僕、そこが気になるんです。

それをわざわざ越えて、橋本にじゃワンストップするための目的があるのかどうか。先ほどのお話やったら、そらサイクリングのお客さんももちろんそれがあったら便利やし、それを目的にされると思うんです。それは非常にええ考えやと思うんですけど、ただ、大阪からの観光客の皆さんは、恐らく高野山に向かって行かれるお客さんっていうのがかなりの数が多いと思うんですわ。

自分も橋本市で生まれ育って、土日には高

野山に行かれるお客さんで渋滞するのはわかってますんで、その高野山に行かれるお客さんが、今までは橋本市っていうのは高野山のお膝元で、ワンストップしていただけたんやけども、高速道路のアクセスがよくなったら、ワンストップしなくてもそのまま高野山に登っていける状態になっています。

それも、もう皆さんご存じなとおり、高野山を登るときに、九度山町のほうから登るより、笠田のほうから登るほうが実際早いでしょう。観光バスも道が楽なんで、そっち通るじゃないですか。

だから、高速道路ができてアクセスがよくなったら、必ずそちらに流れますよ。それを、ワンストップしてもらうために、何か大きな目的を持って、観光と商業を考えていかないとだめなんじゃないかなということ、自分自身が思ったので、質問させてもらったんです。

だから、くにぎふれあいの里があったり、いろんなものがソフトである中で、観光客が目玉にして来た中で、ほかに何かないかなっていうソフトの一つやとしては、もうすごいええと思う、それは。

自分も個人旅行が好きなんで、いろんなところに行きますけども、一つの大きなものを見に行つて、ほか何かないかなって探します。ほんで、いろんなところに行つたら、こんなええところあるんやって、そして知つていうのかな。人間って、一つ大きな目的がないと、そこの観光地には必ず寄らないですよ。必ずメインとなる大きなものをつくつて、枝葉のものをつくつていって、ここは観光がいっぱいあるんやなっていうイメージを持つのが人間なんで、その大きなものをやっぱりつくり上げていくためにはどうしたらいいかなっていうて、質問させてもうたんです。

別に否定しているわけではないんです。言

いっ放しやったら悪いんで、悪いというか言いつ放しになってしまいますんで、自分自身が考えること、前もお話ししましたけど、10番議員も市長も東京に行つて、お話もしていただきましたけど、こういう朝ドラとか付加価値をつける方法、まずこれ、一つですよ。

で、自分自身が考える付加価値、またアニメおたくと言われてしまいますけども、私はアニメが結構好きなんでアニメ誘致、前も言いました。これ、今でも積極的に各都道府県でされているところがあります。そして、真面目な話、総合政策局調査、国土交通省です。国土交通省が、日本のアニメ、漫画を取り巻く状況ということで、本当に真剣にレポートを、約30ページにわたり提出して、それがネットで出せるんですけども、本当にこの中にも書かれているように、これは本当に観光に対してはすごくメリットのあるものだから、どうにか活用できないかっていう内容が書いてある。

そして、例えば僕は結構鳥取県ファンなんですけど、和歌山県が一番好きなんですけども、鳥取県って思つたら、ちょっとしゃべり過ぎで申しわけないんですけど、皆さん、何を思い浮かべますか。梨ちゃいますか。鳥取県といえば梨、僕もそう思つてたんですけど、鳥取県は梨のことはあまり言わないんですよ。漫画王国鳥取とか、あとカレー王国鳥取とか、今もう梨をメインに売り出すんじゃないくて、こういった形で新たに違う取り組みっていうのかな、その中にあるものだけでは観光客が来てくれないから、新たな付加価値をつけて何かをやっていこうということで、こういった形でいろんな誘致をしているんです、実際。

その一つに、アニメ誘致が、鳥取県ではかなりしています。これが、唯一、鳥取の話をするちよつと毛色が違うのは、鳥取県はこれまたすばらしい漫画家というか、有名な漫

画家が多いんですわ。水木しげる先生もそうやしね、あと名探偵コナンの青山剛昌さんも鳥取県出身なんで、こういうところと張り合おうとかいうような話ではないんですけども、ただ、わかりやすい一例としては、やはりアニメで観光産業が成り立っているという事例が、実際多く出ています。

一番のつい最近で話題になったのが、これも鳥取県なんですけども、県の担当者のコメントとして、今や漫画やアニメが観光旅行に出る動機になっている。聖地、聖地っていうのは、アニメのおたくファンの中で、その舞台になった街並みですわ。街並みに付加価値をつける。ただ、人間というのは、見たことあるけど、ほんまに見たことないものを見たいんですよ。聞いたことあるけど、行ったことないところ。ほんま言うたら、テレビでその観光地を見ているんやから、行かんでええんですけど、テレビで見たところに行きたくなるんです。実際、見てみたい。知っているから行きたくなる。知らんところには行かないですよ。

だから、一番の起爆剤として、こういったドラマ化とかアニメ化、こういったものに対して付加価値をつけて。普通の街並みが観光名所になる。こういった手法って、僕、今後すごく本市にとっては大事やと思うんです。なぜかと言うと、高野山のような本当に有名な名所が乱立しているかっていうたら、そうでもない。もちろんたくさん有名なものはありますけどもね。そういったものではなくて、本当にただのコンビニエンスストアが観光名所になったりするんです。

それも、コストはある程度かかりますけども、コストの話ですると、調べたんですけど、僕、ちょっとびっくりしたのが、長浜市の黒壁スクエア、今回総務委員会の視察でたまたま近くやったんで寄せてもらって、1時間ほ

ど総務委員会で寄せてもらったんですけども、非常にお客さんが入ってて、非常に成功している一例で、すばらしいなと思たんです。

でも、実際ふたをあけてみたら、運営会社は赤字なんです。これ、知っていました。僕、初めて知ったんです。僕、調べてみたら、長浜市と民間が合同出資する第3セクター方式で運営されているらしいんですけども、会社自体の運営は赤字なんですよ。つまり、箱物というか街並みをやって、地元にはすごい還元できているんやけども、会社的にはどうなかっていうと、やっぱり利益を上げる方法は少ないんでしょうね。物を売って、商店はどんどんどんどん黒字にはなっていくんやけども、運営している会社にとっては入場料を取るわけでもないし、そういった部分で大きく運営が難しいんでしょうね。

こういった手法ってすごい大事なんかもしれないですけど、今の本市の経済状況から見ても、これはまずできないですよ。こういった大量にお金のかかる、例えばハードをつくっていったりというのは難しいと思うんです。

自分自身は、維持管理のかからないイメージだけのイメージ戦略でブランド化を、橋本市の街並みをブランドできないかっていう考えを持って、このアニメ誘致とかブランド、ドラマ誘致っていうのを考えていきたいなと思うんですけども、ちょっとしゃべり過ぎたんで、ちょっと一点聞きたいんですけど、前以前質問させてもうたんですけど、これについてはどうお考えになりますか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）以前議員のほうから、橋本駅前にガンダムの大きな像をつくって、これを誘客に結びつけたらどうやというお話もあったと思います。それも箱物になってこよいかと思うんですが、今議員が言われ

たように、そういうイメージ戦略っていうのも非常に大事やと思っています。

ちょっと話それるんですが、今観光のスタイルっていうのは、以前の観光地へ見に行こうっていう方がどんどん少なくなって、どちらかというと、食べる物であったり、体験するっていう部分が非常に流行になっております。橋本駅でもよく見かける、さきの議員のときにも答弁させてもらったんですけど、バックパッカーといって、リュックサックを背負っているところ、ハイキングに行ったり、橋本市であれば、観光農園といったところの体験、先ほどお話しさせてもらったヘラブナ釣りの体験であったり、橋本市の祭り、秋祭りであったり桜祭りであったり、そういったイベントの体験を一緒にやっていただく。そういういわゆるソフト的な集客っていうのも可能ではないかと思えます。

いずれにしても、イメージ戦略っていうのはあまり費用もかかりませんし、この間ハロウィンがあったんですけど、欧米の方は大人がすごい怖い格好をして、化粧をして、まちなかに繰り出すなんか、こんなん本当はそんなこと、絶対外国ではできませんっていう、非常に日本のスタイルっていう部分に驚かれて、またこれから毎年ハロウィンになるたびに、そういう人がどんどん増えてくると思えます。そういったものも、観光に結びつけていけるイメージ戦略かもわかりませんが、いろいろ検討しながら、研究しながら、これから橋本市の観光振興について考えていきたいと思えます。

○議長（石橋英和君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

答えのない話をずっとしているんで、何が悪いのかっていうのはわからないです。自分自身もこれが一番いいとは思ってないんですけども、ガンダムつくるという話は半分

冗談で言うたんですけども、新しい取り組み、本当に行政が本当はやるべきかどうか。こんな漫画の話とかアニメの話って、昔は行政なんて関係なかったですよ。こんなん行政がすべきことじゃなかったと思うんですわ。

でも、これが何で今行政が取り組んでいるかっていうと、各地域で本当に効果があるから。アニメっていうものが世界的に認識をされて、海外の人もアニメを求めて来られているっていうニーズが高まっているから、アニメを誘致して村おこし、まちおこしの一つにしていこうという考えが行政にも根づいてきたところが始めているんやと思うんです。

実際、なかなか取り組みは難しいとは思いますが、和歌山市も始めています。もう既に2年ほど前から、新聞、プレスアップしました。和歌山市自体も率先してアニメ誘致を行いますと。和歌山県でももう既に乗り出しているところもありますんで、ぜひとも本市としても何かの起爆剤になるんで、さほど誘致するのにどれほどお金がかかるかとか、どういった物語ができるんかっていうのは、僕らでは理解というかちょっと想像つきませんが、実際、いろんなところでアニメ化されているところは、普通の街並みが舞台になっています。普通の街並みで、普通の高校生の日常を描いたドラマとか漫画とかといったもので成功している事例が多いので、本市としても十分可能性があるんで、一例として挙げさせていただいているんで、今後の進め方において片隅にでもちょっと置いてください。

また、観光っていういろんな面で難しいと思えますけども、その中の一つとして捉えていければ、また本市にとってもプラスになるんじゃないかと思って質問させていただきました。

1番を終わります。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目2、第

二次子ども園計画に関する質問に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（石橋章弘君）登壇〕

○健康福祉部長（石橋章弘君）第二次子ども園計画の進捗とビジョンについてお答えします。

本市は、就学前児童の保育、教育環境の整備を図るため、平成19年度に橋本市幼保一元化5カ年計画を発表し、公立保育園を核に公立幼稚園を統廃合し、公設民営の認定子ども園整備を進めています。

平成21年度には高野口子ども園が、平成24年度にはすみだ子ども園が開園しました。来年4月からは、橋本子ども園と幼保一元化5カ年計画では第二次計画で検討することになっていた応其地域の3園について、保育園、幼稚園の耐震問題から速やかに統廃合し、応其子ども園として開園することになりました。

幼保一元化5カ年計画での残りの山田地域、学文路地域についても、公設民営の認定子ども園整備を進めていきます。第一次計画終了後検討することになっていた第二次計画は、応其地域の3園が子ども園として開園することとなったことから、紀見地域のみとなりました。

第二次計画の目標としては、第一次計画同様、橋本市の次代を担う子どもたちの健全な育成環境を整備し、質の高い養育機会を提供することになります。具体的には、紀見保育園、紀見幼稚園、柱本幼稚園、境原幼稚園をどうしていくかの選択になるものですが、まだ計画の策定には至っていません。

今後の計画を検討していく上では、本年度中に策定される子ども子育て支援事業計画や少子化に伴う乳幼児数の推移、これまでの幼保一元化計画で整備してきた認定子ども園の状況、来年4月からさつき台で新設される民

間保育園の運営状況、また新たに始まる子ども・子育て新制度に伴う民間保育園、民間幼稚園からの認定子ども園への移行状況等を踏まえて検討していきたいと考えています。

○議長（石橋英和君）21番 岡君、再質問ありますか。

21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

ちょっといけずなことを聞こうかなと思っただけですけども、ほんま言うと、さつき台保育園が認可されました。その中で、自分自身が思ってたのは、さつき台保育園に関しては一切何もないです。地元のニーズもありますし、地域の利便性、そして何ていうんですか、地域の住民にとって、近隣の住民にとっても非常に利便性が上がることなので、それはそれで非常にありがたいことやと考えております。

それに、行政コストに関してもかなり削減されるということで、本市にとってはすごくプラスになる話かなとは理解はしておるんですけども、その中で自分が一番気になっていたのは、その認可においては、ちょっと一点、もう一回確認だけしておきたいんですけど、適正配置、適正規模を考えて、認可をおろしたのですよね。僕、そういうふうに、前、お聞きしたんですけども、それでよろしいですかね。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）はい、橋本さつき保育園に関しましては、民間の事業者の計画ということでございまして、その事業計画がいわゆる保育ニーズ量の範囲内であって、規定の要件を備えておったものでありましたんで、認可に至ったということでございます。

○議長（石橋英和君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）はい、それはわかっているんです。いや、僕が聞きたいのは、認可

をおろしたのがあかんとええとかいう話をしとるんじゃないんですよ。それはええんです。だから、非常にありがたい話なんです。適正規模・適正配置を踏まえた上の話なんですよね。そこを聞きたいんです。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）今ご質問の適正規模・適正配置という表現ですけれども、幼保一元化計画の中で適正規模・適正配置の考え方があります。幼保一元化5カ年計画自体は、公設の保育園、幼稚園を対象とした配置計画でございまして、今回質問のある橋本さつき保育園につきましては民間の事業計画ということで、まあいえば、うちの考えている見込み量内であったため認可されたということでございます。

○議長（石橋英和君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）何かこわごわ答弁されたんで、別にそんなかもうと思て質問しているんじゃないんですよ。

許容範囲内で考えられているということで、自分自身もいろいろ考えたんですよ。まあちょっといけずなどうか、ちょっといじわるな質問でいうたら、ほんというたら、じゃ二次計画も反映して考えていかなあかんのちゃうかななんて思ったりもしたんですけども、それを言っても、行政は行政なりに行政コストが下がるし、さつき台って言いまして紀見地区にはなるんですけども、紀見小学校、紀見東になるのかな。にしても、保育園、結構山田のほうにも行かれる方も多い中で、その中の地域のニーズを考えたら、あの場所に一つあってもいいんじゃないかっていう考え方も、それはそれでええんちゃうかなとか、いいなと思ったんです。実際、自分の中でいろいろ考えてね。

だから、二次計画を踏まえて、ほんまは考えてほしかったんやけども、行政があそこに

あればいいんじゃないかという考え方も理解できるんです。行政的にもプラスにもなるし、市民ニーズにもプラスにもなるんで、それはそれで行政もちゃんと考えてくれて、認可をおろして建ててくれたというか、民間に任しはったんやなというのは十分理解しました。いろいろ考えたんです、この何カ月間の間。

そしたら、まあまあそれは理解できたんですけども、ただ、ここでちょっと一点気になるのが、ここはちょっといけずな質問をするつもりないですよ。ここは真剣な話なんですけども。今さつきでできた時点で、ある程度紀見地区の形っていうのがほぼ完了してきているでしょう。まあいえば、あと形態が変わるかもしれないところはありますけども、ある程度幼保、二次計画っていうよりは、そんな大きなビジョンって捉えるよりは、紀見地区の中での今の先ほど話しあった4園を、じゃどういう形に集約していくのか。どういう形で残していくのかっていう話を進めていいたら、もう既に二次計画になりますよね。まあいえば、もう周りの受け皿の形がどんどんどんどん最終形態に向かってきてますんで、あとちょっと1園まだ情報が入ってきてないんでわからないですけども、いろんな形はあるとは思うんですけども、それを踏まえた上で、二次計画といったもう大きな計画よりは、じゃ紀見地区の形をどうしていくんかというだけで、もう幼保一元の二次計画完了の形が見えてくると思うんです。

だから、最終形態考えてって、今ご答弁いただいたんで、別段それ以上聞くことはないんですけども、今後、やはり気になるのは、他地域と違って、私立と非常に接している地域でありますんで、その中で、じゃどう考えていくかっていうのが、やっぱり一番の皆さんが考えている肝になってきているところやと思うんです。その辺を担当課、地域のニー

ズとともに考えて、今後どういう形を、形態をとっていかってというのを考えていただければ、もうそれで紀見地区は完了。もちろん地域のニーズが一番の最優先になりますんで、地域のニーズと照らし合わせて考えていただければいいのかなと思いましたが、今回ちょっと気になったのは、本当は最初さつき台の話で、適正規模・適正配置を考えているのであれば、本当は二次計画の話もセットで考えてほしかったなという希望はあったんですけども、よくよく考え、自分の中でいろいろ考えてみたら、いや行政なりに地域住民なりにかなりニーズもあるし、コスト的にもプラス、そしていろんな面でもプラスということで、それは進められたというのは十分理解できましたんで、それ以上の質問はないんですけども、ただ、一点要望だけ。本当にデリケートな地域です、私立が乱立して。その辺の話も踏まえて、またお話ししていただければいいと思います。この後また、16番議員がまた質問されるんで、それはそれでまたもう一歩踏み込んだ話をしていただければいいと思いますんで、よろしくをお願いします。

2番目、終わります。

○議長（石橋英和君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（石橋章弘君）申しわけございません。先ほどの答弁の一部訂正をお願いいたします。

まず、橋本さつき保育園に関しましてでございます。議員の質問を、私、理解がちょっと間違っております。で、そういう需要動向なり位置等を勘案して、認可に向けて走り出しているということで、本市としては、そういう意味では適正規模・適正配置と考えて、そういう予算等の措置も行ったということでございます。

次に認可の話でございます。そういうことで準備、そういう予定で進んでおりますが、

認可自体は実際開園して運営する直前ということになりますので、訂正しておおびを申し上げます。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目3、態度教育に関する質問に対する答弁を求めます。教育長。

〔教育長（小林俊治君）登壇〕

○教育長（小林俊治君）おはようございます。態度教育の今後と必要性についてお答えします。

態度教育の重要性は十分認識しています。自立した人間に育つためには、人間としての最も基礎となる態度教育が重要です。

昨年度までの取り組みに引き続き、新たに本年度は態度教育を重点施策の一つとして取り組んでいるところです。具体的には、橋本市学力向上プランで、学力を支える重要なものとして、学習集団づくり（仲間づくり）と態度教育の二つを位置づけ、そのプランを各学校へ示し、各学校は子ども等の実態の応じプランを作成し、生きる力としての学力の向上に努めてまいります。

昨年度は、管理職対象の研修会を行い、本年度は校長会、教頭会、園長会で、その重要性や各校・園の取り組みの情報交換を行い、学校では校内研修を行っています。

本市独自の態度教育の構築により、各校の差異が少なくなり、バランスのとれた態度教育ができることのおたただしですが、1人の子どもを幼児教育と小学校、中学校の学校教育で同じ方向性で進めることが肝要と考えています。

本市が大事にしている態度教育とは、あいさつ、返事、履物をそろえる、姿勢を正す（立腰）、食事のマナーの五つです。これらを基本として、中学校区単位で子どもの実態に合わせて指導していますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（石橋英和君）21番 岡君、再質問ありますか。

21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

これ、以前にも質問していただいて、また熱心に取り組んでいていただけるという答弁をいただいたんで、安心しているんですけども、ただ、本当に気になるといいますか、一点あいさつの仕方によっても、学校によって学校の先生が子どもたちにおはようございますって言う学校もあれば、おはようって言う学校もあるんです。

態度教育でよく言われるのが、子どもと同じ目線に立ってあいさつもしていこうよというのが基本にあるんですけども、そのおはようが悪いとは言いません。ただ、各学校まちまちになってしまいますと、子どもたちが中学校区に行ったときに、おはようございますってなのかおはようなのかっていう話にもなりかねるので、やはり統一して行って、態度教育というのを、幼児教育から中学校までしていくっていうのは、僕、非常に大事やと思うんです。

それは、本市の中で各学校ではおはよう、おはようございます、あと靴の置き方一つにしても、指導されている学校もあれば、いやそこはこだわっていない学校もおられると。そういった中で、結局中学校に入ってから、ずっと同じことをやっている子どもたちもおれば、新たにまた学ぶ子どもたちが出てくるっていうのは、やはり態度教育としてはちょっと一貫性を持ちづらいんで、やはり一貫性を持つためにも、そういった細かなことですけども、そういったケアっていうのは大事やと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）教育長。

○教育長（小林俊治君）ただ今の議員のおっしゃるとおりです。特に大事にしたいのは、

子どもの視点に立ってとおっしゃられました。いわゆる子どもの視点に立って、統一した態度教育を行うっていうことは、これからを生きる子どもたちがまさに自立して、そして人間力を持った本当の人間に育つために、大変大切なことだと思っています。

これは、学校だけではなくて、今例えば児童館であるとか、公民館であるとか、さまざまなところでも態度教育に取り組んでいただいています。キーワードは、やはり先ほどおっしゃられたとおり、子どもの視点に立って、子どもの成長を願っての態度教育であって、お仕着せではなく、子どもとともに前へ進んでいく態度教育が必要やと考えています。

それと同じように、保育園から連携していく。保育園も大変取り組みを進めていただいていますので、細かいところまでもう一度統一して態度教育を進めていきたいと考えています。

○議長（石橋英和君）21番 岡君。

○21番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

次、聞こうかなっていうことも全部お話しいただいたんですけど、本当にお仕着せじゃあかんと思うんです。あいさつをなぜしなくちゃいけないのか。強制ではなくて、あいさつの大事さ、そしてやはり自分たち大人も態度教育について最終の目的を持って、これをやっていきたいから態度教育をしていくんやというのを考えないと、ただ単にあいさつができています。靴を並べる。それは何のためにしているんかっていう答えがなければ、子どもたちはやっぱり身につかないと思うんです。実際、それは自分たちが経験したことで、何のためにこれを行っているんかっていうのがわからなければ、やはり子どもたちはそれを形はまねしますけども、本当の意味で将来役に立っていくのかっていったら、僕は自分自身疑問やと思うんです。実際、自分が

昔やらされていた感のあることは、今一切いたしておりません、実際。

だから、やっぱりやってよかったなと思うことは、今でも、もう40過ぎましたけども、自分の中でやってはおるんですけども、でも、実際、お仕着せでもやったほうがよかったのかなということも、実際あるのはあるんですけども、やっぱり子どもたちの気持ちっていうのは、そういうところは向かないんで、やはり何が大事なのか。どうして大事なのかというのを、まず大人が目的を持って考えるためにも、やっぱり橋本市でめざす場所っていうのを考えて、態度教育をこれからまた推し進めていってほしいなと思います。

以前、まだ1年生議員のときに、福井県のほうに視察に行かしてもらったときに、非常にすばらしいなと思ったんですけども、それは本当に伝統によってつくられて、伝統によって培われた本当に独特の態度教育やったん

ですけども、私はそれが本市になじむか。本市の子どもたちにとってプラスかっていうのは、やはりそれも伝統を重んじているところがやるべきであって、やはり我々橋本市っていうのは、橋本市が考える態度教育を推し進めていくのが一番の本市の子どもたちにとっていいことだと思いますので、今教育長からいいご答弁をいただいたんで、これ以上質問いたしませんけども、本当に態度教育、何を大人たちが子どもたちに伝えようか。伝えるべきものを明確な目的を持って、子どもたちにわかりやすく理解していただけるように、子ども目線で態度教育を行っていただきたいと思います。

以上です。終わります。

○議長（石橋英和君）21番 岡君の一般質問は終わりました。

この際、10時55分まで休憩いたします。

（午前10時38分 休憩）